鹿児島本港。右下は鹿児島駅（昭和61年４月撮影）

鹿児島市史

Ⅳ

監修

鹿児島純心女子短期大学教授

芳即正

題字

鹿児島市長　赤崎義則

原良団地上空から桜島を望む

序　文

鹿児島市は明治二十二年(一八八九年)四月一日、全国三十市とともに市制を施行し、平成元年、百周年という記念すべき歴史的な節目を迎えました。

この間、桜島の大爆発、第二次世界大戦による空襲、度々の風水害など、数多くの困難があったにもかかわらず、先人の郷土を愛する情熱と、たゆまぬ努力によって、わが鹿児島市は県都として、また南九州の中核都市として大きく発展してまいりました。

その歴史の流れにつきましては、市制八十周年記念事業として刊行いたしました「鹿児島市史(全三巻)」にまとめたところでありますが、その後、今日までの二十年間におきましても、本市の行政、経済、社会、教育、文化等、あらゆる分野における進展は目覚ましいものがありました。

この「鹿児島市史」は、市制百周年を迎えたのを機に、先に刊行いたしました「鹿児島市史(全三巻)」の第Ⅳ巻として、昭和四十二年以降、約二十年間の本市発展の軌跡を記録したものであります。

鹿児島市制第二世紀へ向けての、力強い第一歩を踏み出すに当たり、今一度本市発展の歴史を振り返るとともに、わが国が高齢化、高度技術・情報化、国際化社会への潮流のなかにある今日、これらに対応した新たなまちづくりについて考えるよすがともしていただければ幸甚に存じます。

この市史第Ⅳ巻を刊行するにあたりまして、執筆を担当いただきました南日本新聞社、並びに監修をいただきました芳即正先生、また各種の資料、写真等のご提供をいただきました関係各位に対しまして、深甚の謝意を表します。

平成二年三月

鹿児島市長　赤　崎　義　則

例　言

一、本巻は前出の鹿児島市史全三巻に続き、市制施行百周年を記念して編纂された第Ⅳ巻である。

一、本巻は主に昭和四十二年四月二十九日の谷山市との合併以降の約二十年間の本市の歴史である。ただし各編によっては多少の相違もある。

年表は第Ⅲ巻と重複するため四十四年以降とした。

一、用字用語は原則として当用漢字と現代かなづかいを用い共同通信記者ハンドブックに準じた。

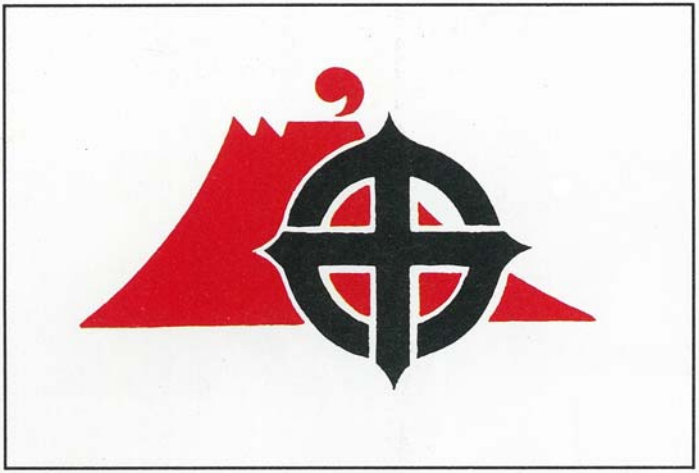
一、本巻の背文字は鹿児島市長赤崎義則の揮毫による。

一、本巻に使用した資料写真は南日本新聞社の全面的な協力による。

一、本巻の各編の執筆は次の通り南日本新聞社の五記者が担当した。

第一編　行政　江田峯生　第二編　経済　第一、二、五章　中野惇夫

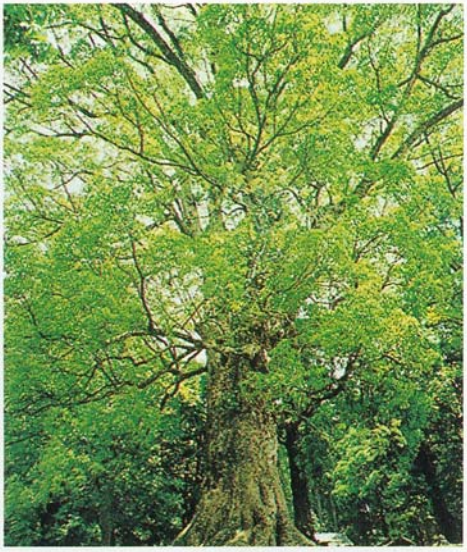
同　第三、四章　吉元盛秋　第三編　社会　富田好納　第四編　教育　第五編　文化　久保光男



市　旗　　（昭和46年９月１日制定）

構　成…市旗の構成は，白色の地に黒色の市紋章（昭和42年鹿児島市告示第５号）と赤色の桜島の図形を配する。
規　格…縦２，横３の比率とする。

市　花　キョウチクトウ
（昭和43年11月１日制定）



市　木　クス
（昭和43年11月１日制定）

太陽国体開会式（昭和47年10月）

若き薩摩の群像

グリーンストーム　咲き誇るツツジ

歴史と文化の道

KAGOSHIMA INTERNATIONAL CONFERENCE ON VOLCANOES 1988
鹿児島国際火山会議

国際火山会議

サザンピア21 会場全景

鹿児島市制100周年記念式典

鹿児島市議会100周年記念式典

鹿児島市史 Ⅳ 目次

第一編 政治

第一章 行政 …… 一

Ⅰ 地方自治の変遷 …… 一
新市発足 …… 一
合併当時の市政 …… 四
昭和五十年代前半の市政 …… 七
昭和五十年代後半の市政 …… 九
昭和六十年代の市政 …… 一一
昭和から平成へ …… 一五
市制施行百周年記念事業 …… 一六
Ⅱ 行政機構の変遷 …… 二一
市長 …… 二一
助役・収入役 …… 二五
市庁舎の変遷 …… 二八

行政委員会……三〇
機構と職員……三二
Ⅲ 市民のシンボル……三九
市　紋　章……三九
市　旗……三九
市民憲章……四〇
都市像……四一
市民歌……四三
市の木と市の花……四五
名誉市民……四五
Ⅳ 国際交流……四六
パース市と姉妹都市盟約……四八
長沙市と友好都市締結……四九
Ⅴ 国内交流……五一
山形県鶴岡市と兄弟都市盟約……五一
薩摩義士ゆかりの交流……五二

第二章　財　政……五三
Ⅰ　合併後の市財政……五三
歳入の移り変わり……五八
歳出の移り変わり……七八
基　金……九九
Ⅱ　特別会計と企業会計……一〇〇
特別会計の推移……一〇〇
企業会計の推移……一一四
市有財産と市債……一二五
第三章　議会・選挙……一三四
Ⅰ　市議会の沿革……一三四
定　数……一三四
会　派……一三五
常任委員会……一三六
特別委員会……一三七
議会運営委員会……一三七

市議会事務局……一三八
会議規則など……一三八
Ⅱ　議会の活動……一三九
市議会の審議状況……一四〇
Ⅲ　役員……一四四
歴代議長……一四四
歴代副議長……一四五
議会選出役職……一四七
Ⅳ　選挙概観……一四七
市議会議員の選挙……一四八
県議会議員の選挙……一五四
国会議員選挙……一五五
最高裁判所裁判官国民審査……一五七
市長選挙……一五八
知事選挙……一六一
農業委員会委員選挙……一六二
その他の選挙……一六二

第四章　保　安
Ⅰ　消　防……一六三
組織の変遷……一六三
予防意識の高揚……一六六
Ⅱ　警　察……一六七
三署体制の確立……一六八
Ⅲ　海上保安……一七〇
Ⅳ　自　衛　隊……一七一
第二編　経　済
第一章　総　説……一七三
Ⅰ　高度成長から安定成長へ……一七三
Ⅱ　経済大国と国際化……一八四
Ⅲ　五十三万都市の形成……一九二
第二章　第一次産業……二〇六
Ⅰ　農　業……二〇六

農基法農政から総合農政へ……二〇六
農家戸数と農家人口……二〇八
農家所得……二一一
農地……二一五
農業生産……二二四
近郊農業の形成……二三七
農協合併……二四七
Ⅱ 漁業……二五四
Ⅲ 林業……二六七
第三章 第二次産業……二七四
Ⅰ 工業……二七四
工業の躍進……二七四
臨海工業地帯の造成……二九三
県工業統計……三〇二
市の製造業者の実態……三〇六
Ⅱ 建設業……三二五
事業所数は倍増……三二五

Ⅲ　鉱　業……三二八
錫山鉱山の閉山……三二八
Ⅳ　特　産　品……三三二
地場産業の育成……三三二
第四章　第三次産業……三五〇
Ⅰ　商　業……三五〇
商業の動向……三五〇
卸売業の実態……三六一
小売業の実態……三七〇
百　貨　店……三九二
飲食店の実態……四〇二
Ⅱ　経済団体……四二六
鹿児島商工会議所……四二六
鹿児島青年会議所……四三五
鹿児島市商店街連合会……四三九
Ⅲ　サービス業……四四五
広がる業種……四四五

Ⅳ 金融……四七五
増える金融機関……四七五
Ⅴ 観光……四八八
しぼんだブーム……四八八
豊かな観光資源……五〇三
大型化する宿泊施設……五一二
観光行政……五一四
Ⅵ 交通……五二一
膨らむ都市交通……五二一
市交通局の再建……五二二
陸上交通の盛衰……五三八
高速化する海上交通……五五三
空港の移転……五六一
Ⅶ 通信……五六八
電話網の発達……五六八
ニューメディアの発達……五七四
郵便……五七五
Ⅷ 電気・ガス……五八六
電気事業の発達……五八六
ガス事業の復興……五九四

第五章　物　流……五九九
Ⅰ　トラック輸送……六〇〇
Ⅱ　海　運……六〇四
Ⅲ　生鮮食料品……六一三
第三編　社　会
第一章　社会福祉……六三七
Ⅰ　昭和四十年代以降の社会福祉……六三七
社会福祉関係法規等の整備……六三七
福祉予算の増大……六三八
鹿児島市の行政機構……六四〇
施設などの充実……六四〇
民生委員・児童委員……六四三
外郭団体……六四四
Ⅱ　生活保護……六四五
生活保護の理念……六四五

扶助の現状……六四六
施設……六四九
災害救助……六五〇
中国からの帰国者援助……六五一
Ⅲ 児童福祉・婦人……六五二
助産施設……六五二
乳児院……六五二
母子寮……六五三
保育所……六五三
養護施設……六五六
精神薄弱児施設……六五六
児童館の建設……六五七
ちびっこ広場……六五七
児童育成クラブ……六五七
手当等の給付と貸し付け……六五八
相談業務ほか……六五九
婦人……六五九
Ⅳ 身体障害者福祉……六六〇
施設面での整備・充実……六六一

身体障害者環境改善……六六二
制度面の充実……六六三
さまざまな手当……六六五
自立を目指す障害者……六六六
国際障害者年……六六七
Ⅴ 高齢者福祉……六六八
高齢化の現状……六六八
施設の整備充実……六六九
経済面での援助……六七〇
高齢者医療……六七一
敬老精神の高揚……六七二
生きがい対策……六七三
第二章 保健衛生……六七八
Ⅰ 医療制度……六七八
医療費の増大……六八〇
医療関係団体……六八四
Ⅱ 医療機関など……六八九

病院の近代化……六八九
診療施設の状況……六九五
歯学部の開設と歯科診療の現状……六九六
看護婦等の養成機関……六九七
保健所……六九九
Ⅲ 保健予防衛生……七〇〇
伝染病……七〇〇
母子衛生・精神保健……七〇三
公衆衛生……七〇五
Ⅳ 環境衛生および清掃……七〇八
ソ族・昆虫等の駆除事業……七〇八
清掃事業……七〇九
し尿処理……七一一
Ⅴ 公共下水道……七一三
昭和三十年代までの公共下水道……七一三
昭和四十年代以降の公共下水道……七一三
Ⅵ 火葬場・墓地……七一七
火葬場……七一七
墓地……七一八

Ⅶ 公害防止……七二一
公害防止行政の歩み……七二一
鹿児島県の公害行政……七二一
鹿児島市の公害行政……七二二
鹿児島市の公害苦情処理状況……七二五
水質汚濁の現状と対策……七二八

第三章 労働……七三三

Ⅰ 労働行政・情勢……七三三
労働対策の充実……七三三
週休二日制の実施……七三四
賃金……七三六
鹿児島県・鹿児島市の労働情勢……七三七
労働戦線統一への動き……七四〇
Ⅱ 労働争議……七四二
春闘……七四二
一時金闘争……七四八
国鉄の民営化と組合の動き……七五〇

その他の主な労働争議……七五二
反戦・平和運動……七五五

第四章　公共事業……七五七

Ⅰ　水道事業……七五七
上水道……七五七
施設の整備……七六一
上水道普及率の向上……七六二
簡易水道ほか……七六二
Ⅱ　都市計画……七六三
都市計画の基本理念……七六三
公園・緑地……七六六
市街地開発……七六八
旧市街地の再開発……七七〇
土地区画整理事業……七七二
住居表示……七七六
Ⅲ　住宅対策……七七九
住宅供給……七七九

鹿児島市の住宅概況……七八二
Ⅳ 港湾・空港……七八四
港湾……七八四
空港……七八七
Ⅴ その他の土木事業……七八七
道路網の整備……七八七
橋……七九二

第五章 災害

Ⅰ 台風……七九六
Ⅱ 集中豪雨……七九八
災害を繰り返すシラス土壌……七九八
Ⅲ 桜島……八〇一
活動の活発化と被害……八〇一
降灰・噴石対策……八〇五
土石流対策……八〇八
研究・観測体制と警戒、避難……八〇九
鹿児島市で国際火山会議……八一〇

Ⅳ 火災……八一一
火災発生件数……八一一
消防力の整備・充実……八一二
Ⅴ 防災……八一五
第六章 市民生活……八一八
Ⅰ 市域の変遷……八一八
Ⅱ 人口……八一九
労働力と産業別就業人口……八二六
男女別の配偶関係……八二九
Ⅲ 治安……八三二
犯罪……八三二
交通事故……八三三
第四編 教育
第一章 学校教育……八三五
Ⅰ 幼児教育・初等教育……八三八
Ⅱ 中等教育……八六九

Ⅲ 特殊教育……八八一
Ⅳ 高等教育……八八六
Ⅴ 専修学校・各種学校……八九八
第二章 社会教育……九〇一
第三章 体育……九一九
Ⅰ 学校体育……九一九
Ⅱ 社会体育……九二九
第五編 文化
第一章 文化……九三九
Ⅰ 文芸……九三九
短歌……九三九
俳句……九四〇
薩摩狂句……九四二
川柳……九四二
詩……九四三

小説……九四四
Ⅱ 美術……九四六
洋画・日本画……九四六
工芸……九四七
書道……九四八
写真……九四九
Ⅲ 音楽……九五〇
洋楽……九五〇
邦楽……九五三
Ⅳ 芸能……九五四
演劇……九五四
洋舞……九五六
日本舞踊……九五七
茶道……九五七
華道……九五八
映画……九五八
第二章 文化財……九六一

Ⅰ 文化財行政……九六一
Ⅱ 文化財保護……九七一
第三章 新聞・放送……九七八
Ⅰ 新聞……九七八
南日本新聞……九七八
鹿児島新報……九八〇
Ⅱ 放送……九八一
日本放送協会（ＮＨＫ）……九八一
南日本放送（ＭＢＣ）……九八二
鹿児島テレビ放送（ＫＴＳ）……九八三
鹿児島放送（ＫＫＢ）……九八五
民放テレビ第四局化……九八六
Ⅲ ニューメディア……九八七
第四章 宗教……九八九
Ⅰ 神道と神社……九八九
Ⅱ 仏教と寺院……九九〇

Ⅲ キリスト教……九九二
Ⅳ 諸教……九九三
付・年表……九九四